

# 患者として

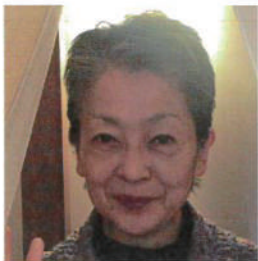
# 酵素医療を体験して

# 感じたこと



## 潰瘍性大腸炎

西山 マリ子



私は小学校3年くらいから中学・高校と元氣そのものの活発な少女でした。幼稚園と小学校低学年までの、喘息や自家中毒に、恐怖の時間を過ごしたことも日頃はほとんど思い出すことがないほどでした。

そんな私が体に異常を感じたのは、19歳になって間もない頃でした。いきなり「お通じ」の話で恐縮ですが、当時から排便は週に2回あれば良い方で、便は臭いものと、思っていました。

自分のものなのに、出したら知らんぶりの、無関心状態でした。ところが或る日、出したものを見て思わず「アッ!」と、声が出てしまいました。

そこには一本の赤い血の筋がありました。それから排便の度に同じ状態が続き、このまま放っておけることではないと思い、近くの病院に行くことにしたのですが、案の定お尻を見せなければならず、情けなくてこのまま帰りたい!と思いつつ、順番を待っていました。

診察が終わり、痔ではなさそうだという事で、後日に腸の検査をしたのですが、結果は病名が付かず、検査結果が出るまでの数日の間に普通の便に

なっていたので、様子を見てまた症状が出たら来るように、「飲むならビオフェルミン」ということで済まされました。それから症状も出なくなり、いつの間にか元通りの生活に戻っていました。

大学3年の冬「お腹にくる風邪」を引き、長引くにしてはお腹の痛みは経験したこともないもので、出る時は下痢ばかりで局所はヒリヒリ、出たものも色も赤茶色に見えました。

すると、あの数年前のイヤな記憶がよみがえり、またあの苦しい検査をするなんてもう御免なんだからと、ひたすら痛みに耐えました。すると、症状はいつの間にか改善されて、やっぱり風邪だったんだ。良かった!と。

今になって思えば、体調を壊して当然の食生活をしていました。0歳児から味を覚えた「コーラ」は、食事の時のお茶代わり。チーズ大好き、トーストにはバターとピーナッツバターの重ね塗りにジャムをトッピング、無糖のヨーグルトに顆粒のお砂糖掛けてジャリジャリした食感がなんとも言えず、コーヒに付いてくる生クリームは残さず飲んで、バタークリームを使ったケーキ大好き、パン大好き、バターはパンに塗るだけではありませんでした。小腹が空くと、スプーン一杯くらいのバターを舐めて、幸せな気持ちに浸っていました。

ともかく食生活を変えることなど考えも及びませんでした。そうこうしているうちに下痢と腹痛

